生命保険協会「ＳＤＧｓシンポジウム」
―持続可能な社会の実現に向けた生命保険業界の役割―
における挨拶

（2022 年３月４日）

金融庁長官　中島 淳一

１．はじめに

〇金融庁の中島です。生命保険協会「ＳＤＧｓシンポジウム」の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

２．健康増進への取組みについて

〇　まず、このシンポジウム第一部のテーマ「人生１００年時代における健康寿命の延伸」については、新型コロナ感染症の影響が長期化し国民の健康への意識が高まる中、生命保険各社においても、健康の維持・増進（ヘルスケア）に関連した商品・サービスへの取組みが進められていると承知しています。

〇　本日、有識者の講演とディスカッションが実施されますが、最新の知見をもとに活発な議論が交わされ、顧客ニーズの変化に対応した商品・サービスの提供につながることを期待しています。

３．サステナブルファイナンスについて

３－１　国際的な動向について

〇　続いて、第 2 部のテーマであるサステナブルファイナンスについて申し上げます。

〇　まず、脱炭素社会の実現など、世界が新たな社会・経済構造への転換に舵を切る中で、サステナブルファイナンスの国際的な議論も大きく進展しています。

〇　昨年の COP26 の開催期間中には、IFRS 財団がサステナビリティ開示の基準を策定する国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）を設置することを公表しました。

○　また、2050年ネットゼロにコミットする民間金融機関による「ネットゼロのためのグラスゴー金融連合」（いわゆるGFANZ）が進捗報告書を公表し、企業や金融機関のトランジション計画の策定を含む今後の活動方針を発表しました。

・　GFANZのプリンシパル・グループには日本から第一生命が、傘下のネットゼロ・アッセットオーナー連合（NZAOA）には、日本の生命保険会社が参加されていると承知しています。

・　COP26を終え、今後、サステナブルファイナンスの実務的な検討が加速していく中で、皆様には国際的な意見発信において一層の役割を果たしていくことを期待しています。

３－２　金融庁におけるカーボンニュートラルへの取組み

○　次にカーボンニュートラルに向けた金融庁の取組について申し上げます。

今後、脱炭素社会の実現にあたっては、それに貢献する日本企業の技術力だけでなく、一足飛びの脱炭素化が難しい産業のトランジション（移行）を含めて、企業の取組みが適切に評価される環境を整備し、国内外からの成長資金を呼び込むことが必要です。

○　現在、金融庁では、昨年６月に公表した有識者会議報告書の提言に沿って、３つの分野で取組みを進めています。

○　１つ目の分野、「企業情報開示の充実」については、

・　コーポレートガバナンス・コードの改訂を踏まえ、東証プライム市場の上場企業に対し、TCFDなどに基づく気候変動開示の質と量の充実を促していきます。

・　また、現在、金融審議会において、気候変動や、人的資本投資を進めるための非財務情報開示の充実といった、企業のサステナビリティ開示のあり方を検討しています。

○　次に２つ目として、「市場機能の発揮」に関する取組みについて申し上げます。

・　グリーンボンドなどの ESG 関連債に関する情報プラットフォームについては、日本取引所グループ(JPX)の実務検討会において、１月 31 日に中間報告書が公表されました。

・　JPX においては、まず公募ＥＳＧ債を対象に、債券情報、発行企業のＥＳＧ戦略、外部評価といった情報を集約する「プラットフォーム」を、本年半ばを目途に立ち上げる予定です。

・　また、ESG 評価・データ提供機関については、本年２月、金融庁に専門分科会を立上げ、評価手法の透明性や評価の独立性など、ESG 評価・データ提供機関に期待される行動規範の策定を進めるとともに、この分野で企業と投資家が果たすべき役割について議論していく予定です。

○　3 つ目、「金融機関の機能発揮」については、

・　世界で脱炭素化の動きが加速する中で、金融機関において企業の気候変動対応や新たな機会の創出など投融資先支援を進めていくことが重要です。

・　金融庁では、大手金融機関を対象にシナリオ分析のパイロット・エクササイズを実施し、これによる知見も踏まえて、投融資先支援や気候変動リスクの管理に関する監督上のガイダンスの策定を進めています。

・　生命保険会社におかれては、

―　機関投資家として、投融資先企業による気候変動対応の取組みを支援・促進することにより、中長期的な視点で、投資先企業の持続可能な経営に資することを期待しております。

４．結び

○　最後に、金融庁としては、これらの取組みにより、市場の健全な

機能発揮を通じて、持続可能な社会と成長を支えていくための枠組みづくりを、今後とも推進していきたいと思っています。

○　本日ご出席の皆様が、今後も、持続可能な社会の形成に大きく貢献していくことを期待いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

（以　上）